

2018年11月7日

中国・モバイク社とIoT電動アシスト自転車で協業検討開始

パナソニック サイクルテック株式会社と、中国の自転車シェアリングサービス会社「北京モバイク・テクノロジー」（中国名：北京摩拜科技有限公司、以下、モバイク）は、このたび、IoT電動アシスト自転車分野で協業の可能性を検討することに合意しました。両社は自転車シェアリングサービス、レンタルサービス利用者向け新技術の共同開発について、検討していきます。

IoT電動アシスト自転車は、通信機能を備えた自転車がインターネットに繋がることで、スマートフォンによる電子錠の開錠や走行データ記録などを提供できるほか、GPSによる高い防犯性・追尾性と駐輪位置管理を実現します。

パナソニック サイクルテックは、1952年から66年間にわたって自転車や自転車関連製品の企画開発から製造、販売までを一貫して手がけてきました。1996年には電動アシスト自転車を発売、お客様のニーズに合ったモノづくりが支持され、電動アシスト自転車で国内トップシェア（※1）を獲得しています。

一方、北京モバイク・テクノロジーは、自転車シェアリングサービス「モバイク」を運営。中国の主要都市のほかシンガポール、イタリア、英国で事業を展開しています。日本では、モバイクの日本法人「モバイク・ジャパン」が2017年8月に札幌市で事業を開始しました。モバイクのシェアリング自転車は、利用者がQRコードをスキャンさせることで、解錠できる電子錠を備えています。

両社は、取り巻く環境が変化する中、信頼できるパートナーとして、お互いの経営資源や事業ノウハウを有効活用することで、お客様へのより付加価値の高い製品・サービスの提供が可能になると判断し、今回の協業の可能性検討の合意に至りました。

今後、電動アシスト自転車のシェアリング・レンタル事業などを通じて、より快適で安心な社会の実現に貢献していきます。

※1:2018年11月7日現在、パナソニック サイクルテック株式会社調べ

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。